

エルサルバドル旅行記

2000年娘が突然、青年海外協力隊に参加すると言い出した。親の意見を聞かない娘。本人が決めたのだから応援するしかない。どこに行くのかと思えばエルサルバドル。エクアドルなら良く聞かすが、エルサルバドル？色々調べてみると内戦やらマラスやら物騒な話ばかり。大丈夫なのか？それでも2年間無事に過ごし、やっと任期を終えて戻ってくると思ったら、なんと現地の人と結婚するからとまた行ってしまった。子供が2人生まれた後も日本に帰ってくる気配は全くない。一体どんな生活をしているのかと気になり2013年に思い切って見に行ってみることにした。

娘が住んでいる町はサンタアナ。サンサルバドルから西へ65 kmのエルサルバドル第2の都市だ。第2の都市とはいえ、着いてみたらこじんまりした田舎町だった。



到着後すぐに娘の自宅周辺を散策してみることにした。町の人達はとても友好的でこちらがスペイン語を話せないことを全く気にせず挨拶をしたり話しかけたりしてくれた。中には「タマーレスはもう試したか？」と郷土料理を届けてくれる人もいた。親切な人達に囲まれてとても安全な場所に思えた。勿論、銀行やデパートの警備員がマシンガンを構えている姿には驚かされたが、2ヶ月間の滞在中に窃盗事件に遭う事もなく、無事に過ごすことが出来た。どうやら危ない場所や、時間帯を考えて生活していれば大丈夫のようで、御陰様で娘一家も危ない目には合ったことはないようだ。



また、協力隊時代の娘の職場（教育省、配属先幼稚園など）を訪問した。まだ、娘が実施した折り紙教室での作品が展示されておりなんと誇らしかった。かつてお世話になった先生方との交流も続いている様で現地の人に教えに行った娘であるが、現地の人に教わることの方が多く、とても遅しく、生き生きとしていた姿がとても印象的であった。

運良くも、エルサルバドル在住の日本人が主催している運動会に参加出来たことは今でも忘れない。運動会の競技はなわとび、二人三脚、そしてパン食い競争！懐かしい競技に年

を忘れて思わず本気になってしまった。日本語を勉強しているエルサルバドル人の生徒さんも一緒になって参加していた。エルサルバドルと日本の友情を見た楽しい思い出となった。

残念だったのが、孫達と意気揚々と釣りに出かけたが一匹も釣ることが出来なかったことだ。しかしながら、コアテペケ湖はとても美しく夕日は絶景であった。今回は行けなかったが温泉や火山も近くにあるらしい。次回のお楽しみとしておこう。

安くて美味しいフルーツが食べられ、Tシャツで過ごせる日々。まるで陽だまりの様な時を過ごせたことにとても感謝している。



寺内義和（てらうち よしかず）氏

2000年から2年間、ご息女が青年海外協力隊幼稚園教諭隊員として活躍。現在は現地の人達に日本語を教えているお嬢さんに日本からエールを送っている。